

中級試験内容

級位	形式	内容	判定基準・目標
4級	筆記（30分） 実技（30分） ※説明時間含む	<筆記試験 全50問> ● 基本知識 [30問/語彙選択式] 在留および訪日外国人に関する基礎知識 在留資格基本知識 行政窓口取扱業務 日本の教育制度 通訳技術に関する知識	業務に必要な基礎知識を有し、話者の意図を理解し、ある程度難易度の高い内容も概ね伝えることができる。 目標としている業務例は以下の通り ◆ 行政窓口での手続き説明 ◆ 展示会等での簡単な商談の通訳 ◆ 自治体外国語相談窓口での通訳
5級	筆記（30分） 実技（30分） ※説明時間含む	● 異文化理解 [10問/語彙穴埋式] 宗教の基礎知識 家族・婚姻制度 食文化・儀礼関連 ビジネスマナー	業務に必要な基礎知識を学習し、話者の意図を理解し難易度の高くない内容を伝えることができる。 目標としている業務例は以下の通り ◆ 各種イベントサポート業務（接遇・誘導・施設案内等） ◆ 地域交流や情報提供 ◆ 自治体での初歩的な内容の外国語相談
6級	筆記（30分） 実技（30分） ※説明時間含む	● 通訳倫理 [10問/正誤問題] 通訳倫理と行動規範 <実技試験 全3問> ● 現場想定型対話逐次通訳試験	業務に必要な基礎知識を学習し、話者の意図を概ね理解し難易度の低い内容であれば伝えることができる。 目標としている業務例は以下の通り ◆ 交通案内・遺失物問い合わせ ◆ メニューや簡単な商品説明

注1）実技試験は会場で用意されたパソコンとヘッドセットを利用して聞こえてくる問題音声に対して逐次通訳で訳出した音声を吹き込む形式となります。

注2）筆記、実技共に言語および級位にかかわらず同一問題となっており、それぞれの級位の合格レベルに達した場合その級位の合格の認定となります。

注3）合格者には合格級位の合格証を授与します。

◆参考図書

「コミュニティ通訳」水野真木子・内藤稔 みすず書房（2015年）

「外国人相談の基礎知識」杉澤経子・関聡介・阿部裕 松柏社（2015年）

その他「多文化共生」に関する過去5年以内に出版された書籍

厚生労働省・法務省による一般公表されている最新統計資料

◆合格基準

筆記試験：100点満点 実技試験：各設問 100点満点 × 3 問

6 級：筆記試験50点以上 実技試験：少なくとも 1 問が80点以上

5 級：筆記試験65点以上 実技試験：3 問中 2 問がそれぞれ80点以上

4 級：筆記試験80点以上 実技試験：3 問とも80点以上